

課題②『スポーツとマナー』

一般競技者における『スポーツとマナー』
～陸上競技選手を手掛かりとして～

堀 優也

はじめに

今日、メガスポーツイベントに代表されるようにスポーツを対象として多額の金銭が動くようになった。またそれは、一般競技者の私にも影響を与えるようになった。なぜならばスポーツを行うには多額の金銭を必要とするようになったからである。

私は中学生以降、競技スポーツに携わってきた。これまで順調に競技生活を行ってきたがそこにかかった費用はかなりの金額にのぼるはずである。

そこで本研究では、一般競技者を対象とし、スポーツにかかる費用を明らかにすることを目的とする。これらを明らかにすることで表題の『スポーツとマネー』の関係性に迫りかつ一流競技者へ進化するための示唆となるであろう。本研究の意義はその点にある。

本研究の先行研究には、以下の研究がある。

- ・ベネッセ教育総合研究所、2009年、「担い手からみるスポーツ・芸術活動の分断と格差」。

上記の研究は、子供のスポーツ・芸術活動の担い手について、学校段階や家庭背景、地域の違いなどからその特徴を描きだし、担い手の「分断」と「格差」の問題について解明した優れた研究である。しかしながら、最も金銭的な問題が出るはずの中学校から大学卒業までの競技スポーツを扱うという点までは踏み込めていない。よって『スポーツとマネー』の関係性についての実態的側面までを明らかにした研究は管見の限りでは見当たらない。

したがって、本研究では、陸上競技において専門性の高くなる中学校から大学卒業までを含む陸上競技を行う上で掛かる費用を明らかにすることを課題とする。

上記の課題を明らかにするため、以下の研究方法をとる。

まず、アンケート調査を行う。分析対象者は埼玉県内の中学校、高校、大学に通う学生とした。種目は広範囲のスポーツ種目から、最も身近で競技人口の多いと考えられる陸上競技を選択した。

以上のようなアンケート調査の分析から、より詳細なスポーツとマネーの関係性に迫ることができるはずである。

アンケート調査は以下の先行研究であるベネッセ教育総合研究所の調査を参照に、以下の通りとした。

アンケート内容は以下の通りである。

- ・活動日数(a)
- ・水分補給の手段(b)
- ・サプリメント（主にプロテイン）は飲んでいるか(c)
- ・学校に（中高大）入学してから陸上競技に関わる衣類を何着購入したか(d)
※種類別に記入して下さい。
- ・学校に（中高大）入学してからスパイクシューズに 何足費用購入したか(e)
- ・学校に（中高大）入学してからアップシューズを何足費用購入したか (f)
- ・年間の競技会の成績と出場数(g)

上記のアンケート結果をもとに一般競技者における費用を明らかにする。

具体的に明らかにする費用のは、以下の通りである。

1. 食費の総額（食費、水分摂取に掛かる費用、栄養補助食に掛かる費用）
2. 用具に掛かる総額
3. 競技会出場に掛かる総額

上記に示す競技に最も身近で必要と考えられる3項目を明らかにする。

1. 食費の総額

- 1) 中学生2名、高校生2名、大学生2名を対象にアンケート調を行った。それらの結果（表1）をもとに、まず、消費の総額を見てみたい。競技スポーツを行っている時間（1時間～3時間とした場合）の水分摂取量、栄養補助食（主にプロテイン）の摂取量、食費（365日で換算）の最少額から最大額を明らかにする。食費は総務省の家計調査報告（家計収支編）主要家計指標二人以上の世帯（2012年1～12月の食料平均）を基にした。「家計調査報告（家計収支編）主要家計指標二人以上の世帯（2012年1～12月の食料平均）」¹によると食費の月平均は6万6130円となっており一人当たり月3万3065円になる。年間で39万6780円になる。この額は一般競技者に関係なく全ての人に当てはまる事例である。

¹家計調査報告（家計収支編）主要家計指標二人以上の世帯（2012年1～12月の食料平均）
<http://www.stat.go.jp/data/kakei/2.htm>

2) 水分摂取量に掛かる総額

競技スポーツを行う上で水分補給は大切である。日本体育協会では「運動時の水分補給の目安について1~3時間の運動では1時間につき500~1000mlの水分を補給すること」²を推奨している。週5日活動した時の(土日、祝日を除く平日249日に統一する。)年間水分摂取量は12万4500mlから74万7000mlになる。2000mlを357円とした場合(本研究ではコカ・コーラ株式会社のアクエリアス2Lをもとにする。)上記の水分摂取料から換算すると年間2万2223円から13万3339円になる。(小数点第一位切り捨て)中学生Aと高校性Bは1Lだけスポーツドリンクを持参している結果なので年間4万4446円になり、3年間で13万3339円になる。中学生Bは主に学校の水道水を利用しているという結果なので限りなく総額は0円に近くなる。高校性Aと大学生A、Bは2L持参している結果なので年間8万8889円になる。高校生Aは3年間で最大26万6679円なり、大学生A、Bは4年間で最大35万5556円になる。

3) 栄養補助食品(主にプロテイン)に掛かる費用

栄養補助食としてプロテイン・マグネシウム・クレアチン・ビタミン剤など様々なサプリメントが現存する。本研究では主にプロテインを摂取した場合の費用を明らかにする。

1袋容量1000g(1食30g)価格5040円とする(本研究では森永製菓ウィダーのプロテインをもとにする)。活動後にプロテインを摂取する場合のみ年間(活動日数を平日249日とした場合)で最大7470gになり、7.47袋消費することになる。1食あたり153円で最大3万8097円になる。中学生A、高校性A、大学生A、は飲んでいいる結果なので在学期間3から4年の総額は11万4291円から15万2388円になる。中学生B、高校性B、大学生Bは飲んでいない結果なので総額0円になる。

中学校から大学卒業まで栄養補助食(主にプロテイン)を摂取した場合、総額38万970円になることが明らかになった。

²田口素子(早稲田大学),2014,『スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 III』,39項。

2. 用具に掛かる総額

- 1) 次に、アンケート調査結果（表 1）をもとに、用具に掛かる総額を算出してみたい。陸上競技に用いる用具は短距離種目でスタート時に用いるスターティングブロックや槍、円盤、砲丸など特殊な用具を必要とする。棒高跳びや走り高跳びは巨大なマットが必要となる為、個人所有する者は一般競技者では皆無に等しい。そこで一般的には競技場に行き練習することとなる。一般競技において最も重要になってくるのは衣類（ジャージ、T シャツ、タイツ、etc...）や靴（スパイクシューズ、アップシューズ）である。ジャージにも様々な機能があり、機能別に値段も変わっていく。本研究では一般競技者に最も必要と考える衣類（ジャージ、T シャツ、タイツ、etc...）、靴（スパイクシューズ、アップシューズ）を入学後に購入した場合に掛かる費用の指標を明らかにする。

アンケート調査の回答（表 1 を参照）をもとに T シャツ（2625～4200 円）、ロング T シャツ（2940～5040 円）、ハーフパンツ（3990～6300 円）、ショートタイツ（4515～5775 円）、ハーフタイツ（3460～5985 円）、セミロングタイツ（5250～7035）、ロングタイツ（5040～8400 円）、レーシングパンツ（3360～6090）、ユニフォーム上下（12600 円）、ジャージ上下（1 万 3860～2 万 2785 円）、ウィンドブレーカー上下（1 万 185 円～2 万 8350 円）、スパイクシューズ（9345～2 万 8350 円）、ランニングシューズ（9975～1 万 6275 円）に分類する。（本研究ではミズノ製品情報 2013 年現在をもとにする）ユニフォーム上下はチームユニフォームと仮定し価格はオーダーメイド料金からなる。中学生 A は入学後に T シャツ 5 着、ロング T シャツ 2 着、ハーフパンツ 2 着、ショートタイツ 1 着、ロングタイツ 1 着、スパイクシューズ 3 足、ランニングシューズ 4 足を購入。中学生 B は T シャツ 2 着、ハーフパンツ 1 着、スパイクシューズ 2 足、ランニングシューズ 3 足を購入している。中学生 A、B のユニフォームは学校から支給（貸出）される為購入はしていない。また中学生 A、B は学校指定ジャージを使っている為ジャージは購入していない。中学生 A、B の回答をもとに中学校にて掛かる指標は総額 6 万 795～20 万 8005 になる。高校生 A は入学後に T シャツ 5 着、ロング T シャツ 3 着、ハーフパンツ 2 着、ジャージ上下 3 着、ウィンドブレーカー上下 3 着、ショートタイツ 1 着、ハーフタイツ 2 着、ロングタイツ 2 着、ユニフォーム上下 1 着、スパイクシューズ 3 足、ランニングシューズ 5 足購入している。高校生 B は T シャツ 3 着、ロング T

シャツ 2 枚、ハーフパンツ 1 着、ハーフタイツ 1 着、ジャージ上下 1 着、ウィンドブレーカー上下 1 着、ユニフォーム上下 1 着、スパイクシューズ 2 足、ランニングシューズ 3 足を購入している。高校生 A、B の回答をもとに高校にて掛かる指標は総額 10 万 6425 円から 41 万 5695 円になる。大学生 A は T シャツ 6 着、ロング T シャツ 3 枚、ハーフパンツ 1 着、ハーフタイツ 1 着、セミロングタイツ 2 着、ロングタイツ 2 着、レーシングパンツ 2 着、ジャージ上下 3 着、ウィンドブレーカー上下 3 着、ユニフォーム上下 1 着、スパイクシューズ 4 足、ランニングシューズ 6 足を購入している。大学生 B は T シャツ 4 着、ロング T シャツ 2 着、ハーフタイツ 1 着、セミロングタイツ 1 着、ロングタイツ 1 着、セミロング 1 着、ジャージ上下 1 着、ウィンドブレーカー 1 着、ユニフォーム 1 着、スパイクシューズ 2 足、ランニングシューズ 3 足を購入している。大学生 A、B の回答をもとに大学にて掛かる指標は 12 万 1690 円から 42 万 2710 円になる。

中学生と比べ、高校生、大学生からランニングシューズの購入数増加の背景には練習量の増加もしくは競技力向上によるものと考察できる。競技力の高い A は競技力の低い B と比べ陸上競技に関わる衣類が多い結果となった。中学校から大学卒業までの総額は 28 万 8910 円から 104 万 6410 円になることが明らかになった。

3. 競技会出場に掛かる総額

- 1) 中学校～大学卒業まで陸上競技部に所属して競技会（記録会）に参加するにはまず、日本中学校体育連盟（以下中体連という）、全国高等学校体育連盟（以下高体連という）、日本学生陸上競技連盟（以下日本学連という）に登録しなければならない。

「中学校の生徒の登録は、学校単位で都道府県陸協に団体登録するものとする。都道府県陸協は 7 月末日までに登録会員名簿を本連盟に提出しなければならない。登録料は、各都道府県陸協と各都道府県の中体連がこれを定める。高校生の登録は高等学校および通信制高等学校の生徒の登録は、学校単位で都道府県陸協に団体登録するものとする。登録料は、各都道府県陸協と各都道府県の高体連陸上競技部、または都道府県高等学校体育連盟通信部がこれを定める。大学生登録は日本学連加盟校の学生登録は、次のうちいずれかを一つの都道府県陸協に登録する。1、出身校所在地 2、大学所在地（大学所在地が複数の都道府県にまたがる場合は学生の在

学している学部、学科のある都道府県) 3、居住地」³

本研究では埼玉県内での中学校、高校、大学に通う学生を対象としているので中学校から高校までは埼玉陸上競技会の登録登記条件に基づく。「団体登録料は1名につき年会費4000円かかり、学生登録者は1人2000円の陸協協力費を納入しなければならない。(25年度現在)」⁴

「大学は1名につき年会費5000円を納入しなければならない。(25年度現在)」

上記を踏まえ競技会に参加するにはまず4000円から7000円掛かることになる。競技会への参加にはまず、競技会各種の要項を確認し競技参加申し込み日までに出場種目のエントリーと参加種目の分の参加料を支払わなければならない。埼玉県内で行われている競技会は1種目の金額は中学生が600円、高校生800円、大学生(一般扱いになる)は1000円、リレー種目は1チームにつき1500円(中学生は1000円)となっている。

中学生Aの競技会への出場数は5回、中学生Bの競技会への出場数は3回となっている。1種目だけ出場する場合、総額1800~3000円となる。しかしながら出場枠の定められている特殊な競技会や部活動全体での出場を主にしている競技会への参加は中学校の部費として賄われる場合があるため総額は1800円を下回る事が考えられる。登録費に関しても中学校の部費として賄われる事があるので0円の場合も十分に考えられる。

高校生Aの競技会への出場数は7回、高校生Bの競技会への出場数は4回となっている。1種目だけ出場する場合、総額3200~5600円となる。こちらも中学校と同様に出場枠の定められている特殊な競技会や部活動全体での出場を主にしている競技会への参加は高校の部費として賄われる場合があるため3200円を下回る事が考えられる。登録費も同じことが考えられる。

大学生Aの競技会への出場数は11回、大学生Bの競技会への出場数は6回となっている。1種目だけ出場する場合6000~11000円になる。しかし、日本学生陸上競技連盟が主催となる競技会では1種目2000円となるので出場する場合11000円を超える事が考えられる。大学生Aの場合関東インカレに出場しているので年間

³ 公益社団法人日本学生陸上競技連合の会員に関する規定より抜粋
<http://www.iuau.jp/gakurentouroku/1kaiinkitei.pdf>

⁴ 一般財団法人埼玉陸上競技協会の会員に関する規定より抜粋
http://sairiku.net/xoops/modules/pico/index.php?cat_id=5

1200 円掛かっていることになる。

競技力の高い A は競技力の低い B より多くの競技会へ出場していることがアンケート調査から明らかになった。また出場数が増える分出費が掛かっている。大きな競技会には標準記録が設けられている場合があり、それを超える記録を持っているかどうかで出場できる競技会数に変動していく。中学校から大学までの競技会への出場に掛かる費用は登録費含め 9 万 1000 円から 12 万 1800 円になることが明らかになった。

おわりに

埼玉県内の中学生～大学生のアンケート調査の結果により一般競技者による『スポーツとマネー』について以下のようにまとめられる。

- ① 年間の食費は中学生 A が 51 万 5517 円に対し中学生 B が 39 万 6780 円となり、A と B の差は 11 万 8737 円となる。高校生 A は年間 59 万 9960 円に対し高校生 B は年間 44 万 1226 円で差は 15 万 8734 円になる。大学生 A が年間 52 万 3766 円に対し大学生 B は 48 万 5669 円なり差が 4 万 4291 円になる。
- ② 中学校にて掛かる指標は総額 6 万 795 円から 20 万 8005 円になる。
高校にて掛かる指標は総額 10 万 6425 円から 41 万 5695 円になる。
大学にて掛かる指標は 12 万 1690 円から 42 万 2710 円になる。
- ③ 競技会への出場に掛かる費用は中学校から大学卒業までの 10 年間で 5 万 2000 円以上掛かる

以上の結果は競技力の高い中学生～大学生 A、B のアンケートを基準にした一般競技者による『スポーツとマネー』の指標である。

本研究の分析結果から競技力の高い A は競技力に劣る B よりも食費、用具、競技会出場の費用の 3 項目、全てにおいて突出していることが分かった。

食費においては個人の体質なども考慮しなければならないが、上記の結果は A が更に競技力向上を図るには、食費に更に費用が掛かることを示唆している。それは成長段階にある中学生から高校生の食費の差と、競技力の差が関係していると捉える事が出来るだろう。用具は競技力の高い A の方が衣類、靴を多く購入していることが明らかになった。これについては、高校から金額が著しく上がる結果を見ると、競技レベルがより専門性になって

いくという理由が推測できる。競技会への参加費用は中学校から大学卒業まで個人の競技レベルやモチベーションによっても変動することが、本研究の結果から容易に理解できよう。例えば、競技力の高い大学生 A は出場数が B の約 2 倍になっている。というのも標準記録を突破しないと出場できない競技会が存在するため、出場権を獲得するために数多くの競技会に出場しなければならないからである。中学校から大学卒業までの全ての費用総額は 633 万 6070 円になる。これらの半分以上は食費が占めている結果となった。

以上のように従来の研究では、触れられてこなかった、中学生から大学生を対象とした分析を行ってきた。これまで明らかにされてこなかった視点を組み込んだ分析を行うことで、一定の成果を挙げたということができよう。また、本研究で明らかになった『スポーツとマネー』の関係性、特に費用をかければ、競技力が伸びることは想像に難くない。

しかしながら、今回のアンケート調査はあくまで 6 項目（表 1 を参照）のみで、食事の回数や摂り方、その他摂取している栄養補助食品摂取種類と量や用具にどこまでお金をかけているか、など詳細な部分まで踏み込むことができなかった。よって以下の 3 点が今後の課題になる

- ① 食事の取り方に関する詳細な調査
- ② 栄養補助食品の取り方に関する詳細な調査
- ③ スポーツ他種目の分析

以上の 3 点を明らかにすることで、より詳細で明確な『スポーツとマネー』の関係性に迫ることができるであろう。それは今後の課題としたい。

図表一覧

表1 これまでの競技生活にかかった費用

	中学生A	中学生B	高校生A	高校生B	大学生A	大学生B
a	週5日	週5日	週5日	週5日	週5日	週5日
b	1Lスポーツドリンクを持参している	主に水道水	2Lスポーツドリンクを持参している	1Lスポーツドリンクを持参している	2Lスポーツドリンクを持参している	2Lスポーツドリンクを持参している
c	Yes	No	Yes	No	Yes	No
d	Tシャツ×5 ロングTシャツ×2 ハーフパンツ×2 ショートタイツ×1 ロングタイツ×1	Tシャツ×2 ハーフパンツ×1	Tシャツ×5 ロングTシャツ×3 ハーフパンツ×2 ジャージ上下×3 ウィンドブレーカー×3 ショートタイツ×1 ハーフタイツ×2 ロングタイツ×2 ユニフォーム上下×1	Tシャツ×3 ロングTシャツ×2 ハーフパンツ×1 ジャージ上下×1 ウィンドブレーカー×1 ハーフタイツ×2 ロングタイツ×1 ユニフォーム上下×1	Tシャツ×6 ロングTシャツ×3 ハーフパンツ×1 ジャージ上下×3 ウィンドブレーカー×3 ハーフタイツ×1 セミロングタイツ×2 ロングタイツ×2 レーシングパンツ×2 ユニフォーム×1	Tシャツ×4 ロングTシャツ×2 ハーフタイツ×1 セミロングタイツ×1 ジャージ上下×1 ウィンドブレーカー×1 ユニフォーム上下×1
e		3	2	3	2	4
f		4	3	5	3	6
g	県大会出場	地区予選止まり	県大会7位入賞	地区予選止まり	関東学生陸上競技対校選手権大会出場	記録会競技会に参加する程度

アンケート調査より作成。

参考文献一覧

- 1 家計調査報告(家計収支編) 主要家計指標二人以上の世帯(2012年1~12月の食料平均)
<http://www.stat.go.jp/data/kakei/2.htm>
- 2 田口素子(早稲田大学),2014,『スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 III』,39項。
- 3 公益社会法人日本学生陸上競技連合の会員に関する規定より抜粋。
<http://www.iuau.jp/gakurentouroku/1kaiinkitei.pdf>
- 4 一般財団法人埼玉陸上競技協会の会員に関する規定より抜粋。
http://sairiku.net/xoops/modules/pico/index.php?cat_id=5

要約

今日、メガスポーツイベントに代表されるようにスポーツを対象として多額の金銭が動くようになった。またそれは、一般競技者の私にも影響を与えるようになった。なぜならばスポーツを行うには多額の金銭を必要とするようになったからである。

私は中学生以降、競技スポーツに携わってきた。これまで順調に競技生活を行ってきたがそこにかかった費用はかなりの金額にのぼるはずである。

そこで本研究では、一般競技者を対象とし、スポーツにかかる費用を明らかにすることを目的とする。これらを明らかにすることで表題の『スポーツとマネー』の関係性に迫りかつ一流競技者へ進化するための示唆となるであろう。従来の研究では、触れられてこなかった、中学生から大学生を対象とした分析を行ってきた。これまで明らかにされてこなかった視点を組み込んだ分析を行うことで一定の成果を挙げたということができよう。また本研究で明らかになった『スポーツとマネー』の関係性、特に費用をかければ、競技力が伸びることは難しくない。

キーワード

スポーツ,マナー,競技レベル,陸上競技,中学生,高校生,大学生,食事,スポーツ用具,競技会